# 「天気」原稿執筆要領

## 1．用紙とレイアウト

① A4白紙（縦）に横書きでプリントする．1行の文字数を24字，1ページの行数を44行とし，行番号とページ番号をつける．用紙のマージンは，左右50 mm以上，上下30 mm以上とする．なお，刊行時のレイアウト（2段組）による原稿は編集作業に支障があるため不可とする．
本要領に基づく原稿雛形（ワード形式）が，
http://ww.metsoc.jp/tenki/files/writing_template.doc
に登載されている．

② 手書きの場合は，横書き原稿用紙（400字あるいは500字詰）を使用する．なお英文要旨と英文による図表の説明文をつける場合，これらについては手書きは不可とする．

## 2．構成

① 第1表に示す構成とする．

② 論文などの和文要旨は400字以内とする．論文・短報・解説に英文要旨をつける場合，300語以内とする．

③ 節番号は「2．」，「2.1」，「2.1.1」とする．文中で箇条書きが必要な場合には，①② などとする．

④ 付録中の節番号は「A.1」「A.1.1」のようにする．付録が2つ以上ある場合は「付録A」「付録B」…として区別する．

⑤ 脚注はなるべく用いない．

## 3．表記

### 3.1　著者名・所属機関名の表記

所属は郵便物が確実に届く程度のもの（大学の場合は学部程度）を書く．役職名は原則としてつけない．著者と所属の対応関係を，*や**を用いて表記する．具体的な書き方は最近号の例を参照のこと．

### 3.2　内容分類番号，キーワード

内容分類番号は，別表の中から該当するもの1件以上を選び，その番号を記する．キーワードは記事の内容に相応しい任意の語を1つ以上，カッコに入れて記載する．

記載例：*104*：*105*：*7*（集中豪雨；二つ玉低気圧）

### 3.3　文中の表記

「天気」の読者にはいろいろな分野の人がいることを考え，特定の分野や業種内でのみ通用する言葉の使用は控えるものとし，止むを得ず使う場合は説明をつけることを原則とする．なお，その用語が誤解なく会員に受け入れられると判断されるときは説明を省略できる．

以下に指針を示すが，原稿の性格などによっては柔

第１表　各原稿の様式
○：必要，※：記載事項があれば必要，△：任意，
－：なし

| | 論文 | 短報 | 解説 | その他 |
|---|---|---|---|---|
| 和文表題 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 著者名，所属機関名 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 責任著者の住所または電子メールアドレス（両方掲載も可） | ○ | ○ | ○ | △ |
| 内容分類番号，キーワード | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 要旨 | ○ | △ | △ | － |
| 英文の著者名 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 英文表題 | ○ | ○ | ○ | △ |
| 英文の所属機関名・住所 | ○ | ○ | ○ | － |
| 英文要旨 | △ | △ | △ | － |
| 本文 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 謝辞 | ※ | ※ | ※ | ※ |
| 略語一覧 | ※ | ※ | ※ | ※ |
| 参考文献 | ※ | ※ | ※ | ※ |
| 付録 | ※ | ※ | ※ | ※ |
| 図表の説明文 | ※ | ※ | ※ | ※ |

* 本だな，質疑応答，その他ごく短い記事については，より簡易な形式も可．
** 本だな，および情報File等の連絡記事には「内容分類番号」「キーワード」は不要．

軟に対応する．

① 気象用語は気象学会「オンライン気象学用語集」（現在作成中）や「文部省学術用語集気象学編」を参考とする．外国語を使う場合は，日本語としての用例が少ないものを除き，カナ書きにする（ハリケーン，フェーンなど）．外国語のカナ表記の指針は特に定めないが，当該記事の中で表記がばらつかないようにする．

② 外国の人名・地名は，社会的知名度の高いものはカナ書きとする（ニュートン，ロンドン，ロッキー山脈など）．それ以外は状況に応じて原語を併記し，あるいは原語表記にすることができる．

③ 数字は算用数字を使うが，「数百」「十数回」「三角形」のような熟語的なものは例外とする．年号は原則として西暦を用いる．時刻は24時間制とし，必要に応じて日本時間（JST）と協定世界時（UTC）の区別を明記する．経緯度は「北緯30度」「30°N」のどちらでも良い．

④ 単位はSI 単位系による（「オンライン気象学用語集」の別表参照）．止むを得ず他の単位を使う場合はSI 系への換算式を示す．

⑤ 国内の機関名は省略せず完全形を記する．ただし，簡潔さを要する報告記事の場合などは，誤解を生じない範囲で略称を使用できる（「東大大気海洋研」など）．

⑥ 略語を使う場合には，初出時に完全形を書くか，本文の末尾に略語表をつける．機関名やプロジェクト名の略称についても同様である．

⑦ 句読点は誌上では「,」「.」と印刷されるが，原稿は「、」「。」でもよい．

### 3.4　数式

数式は上下に１行ずつあけて明瞭に書き，引用するときのために右端に（1），(39）などのように原稿全体にわたっての通し番号をつける．付録中の式は（A1）のように，本文とは別の通し番号をつける．

## 4．参考文献

### 4.1　文中での引用方法

① 著者が２人以下の場合には全員の姓を書き，発表年を記する．

② 著者が３人以上の場合は第１著者に「ほか」（和文論文）または「*et al.*」（欧文論文）をつけ，発表年を記する．

③ ①②により，同じ表記になる文献が複数ある場合には，発表年にアルファベットをつけ，岡田（1972a），岡田（1972b）のようにして区別する．

・記載例：
…解析の結果（松野1970；Klemp *et al*. 1981a, b；二宮・秋山 1991）は…．…は浅井ほか（1981a）やKraus and Businger（1994）が調べている．

### 4.2　参考文献欄の記載順

和文・欧文の区別なく第１著者名のアルファベット順に並べる．同じ第１著者の文献が複数ある場合には，

① 著者が１人のものを年代順に並べ，

② 次に著者が２人のものを第２著者のアルファベット順に並べ，

③ 次に著者が３人以上のものを，著者数に関係なく年代順に並べる．

### 4.3　各文献の記載方法

① 雑誌中の文献：著者・年・表題・雑誌名・巻または号番号・ページまたはdoiの順とし，以下の要領で記載する．

a．著者：原則として著者全員を下記の記載例の様式

で書く．

b．表題：欧文文献の場合，冒頭と固有名詞を除いて小文字で書く．

c．雑誌名：和文誌名は原則として略記しない．欧文誌の略記法については最近の本誌参照．

d．巻・号とページまたは doi（記載例参照）：

・巻全体の通しページがある雑誌は，巻番号（ゴシック）と通しページまたは doi を書く．

・巻全体の通しページがない雑誌は，5（12）のように巻番号（ゴシック）に続けて，号番号を括弧で示し，号毎のページを記す．

・号番号だけで巻番号のない雑誌は，括弧でくくった号番号とページを示す．

・記載例：

Klemp, J. B., R. B. Wilhelmson and P. S. Ray, 1981: Observed and numerically simulated structure of a mature supercell thunderstorm. J. Atmos. Sci., **38**, 1558–1580.

Haerter, J. O., P. Berg and S. Hagemann, 2010: Heavy rain intensity distributions on varying time scales and at different temperatures. J. Geophys. Res., **109**, D17102, doi:10.1029/2009JD013384.

松野太郎，1970：重力波と地衡風運動．天気，**17**，349–352．

二宮洸三，秋山孝子，1991：梅雨前線帯の cloud cluster．気象研究ノート，(172)，135–209．

・論文・短報以外の記事では，著者数がおおむね10人以上の文献を下記のように略記できる．

Onogi, K. *et al*., 2007: The JRA-25 Reanalysis. J. Meteor. Soc. Japan, **85**, 369–432.

余田成男ほか，2008：日本における顕著現象の予測可能性研究．天気，55，117–126．

② 単行本の引用：著者・発行年・書名・出版所・引用ページあるいは総ページの順とする．書名中の主要単語は先頭を大文字にする．

・記載例：

浅井冨雄，武田喬男，木村龍治，1981：雲や降水を伴う大気．大気科学講座 2，東京大学出版会，249pp．

Kraus, E. B. and J. A. Businger, 1994: Atmosphere-Ocean Interaction (2nd ed.). Oxford Univ. Press, 362pp.

③ 共同執筆書の一部引用：著者・発行年・表題・編集者名・書名・出版所・引用ページの順とする．表題・書名の書き方は上記①②と同様にする．

・記載例：

木田秀次，1998：地球を巡る大気の流れ．新教養の気象学，日本気象学会編，朝倉書店，61–72．

Defant, F., 1951: Local winds. Compendium of Meteorology (T.F. Malone, ed.), Amer. Meteor. Soc., 655–672.

④ Web ページの引用：著者・年・表題またはサイト名・URL，最終閲覧日．

・記載例：

気象庁，2015：気象観測統計の解説．http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/kaisetu/ (2015.10.28閲覧)．

なお，Web ページの内容を引用せずその存在だけを提示する場合には，本文中に直接 URL を記載してもよい（脚注の使用は避ける）．

### 5．図表

① 図は電子ファイルまたは A4判用紙に描き，図番号をつける．

② 線の太さや文字の大きさは，印刷時に縮小されても見づらくないよう十分注意する．また，カラーの図が白黒印刷される場合，トーンが明確に判別できるよう注意する．これらは，投稿前にプリントアウトして確認することが望ましい．

③ 図の掲載時の横幅は，2 段組の片段の場合67 mm，1.5段の場合106 mm，2 段にわたる場合は 145 mm の 3 通りである．図毎に印刷時の大きさを指定する．また，カラー印刷を希望する図についてはその旨を指定する．

④ 図表の番号は「第 1 図」「第 2 表」などとする．1 つの番号の図表に何種類もの図表が含まれている場合は a)，b)，…として区別する．このとき，本文中では「第 1 図 a によると」のように引用する．付録中の図表の番号は「第 A1図」などとする．

⑤ 引用する図表が出てくる本文の該当箇所の右横欄外に「第 1 図挿入」などと朱書する．

⑥ 図表の説明文はまとめて本文の末尾に付ける．論文・短報・解説については，図表の説明文を英文とすることができる．この場合，図表の番号は Fig. 1，Table 2 などとするが，本文中での引用時には第 1 図，第 2 表などとし，図表の説明を本文中でも行って，本文を読むだけで意味が理解できるようにする．